

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学校・対象学年

- ・川辺町 小学校3校 中学校1校
- ・小学校第6学年、中学校第3学年

(3) 調査内容

①教科に関する調査【国語、算数・数学】

- ・主として「知識」に関する問題
- ・主として「活用」に関する問題

②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

(4) 調査日 平成28年4月19日(火)

2 川辺町における調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

小学校

昨年度の町の平均正答率と比べ、国語、算数とも上回る結果となりました。国語の活用に関する問題、算数の知識・活用に関する問題において、全国の平均正答率と同様の結果となっています。国語の知識に関する問題においては、やや下回る結果でした。

【本町の児童が概ね身に付けている内容】

- 目的に応じて、文章と図表やグラフなどを関連付けて読むこと。(国語)
- 目的や意図に応じて、情報を関係付けて話し合うこと。(国語)
- 末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすること。(算数)
- 問題場面に示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べること。(算数)

【本町の児童に一層身に付けさせたい内容】

- △学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと。(国語)
- △平仮名で表記されてものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりすること。(国語)
- △数直線などの図や既習の除法の意味と関連付けて、単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解すること。(算数)
- △日常生活の事象と式を関連付け、式の意味や数値の意味を解釈し、説明すること。(算数)

中学校

全国の平均正答率と比べ、すべての教科で上回る結果となっています。また、昨年度の町の平均正

答率と比べ、国語の知識、数学の活用に関する問題で伸びがみられました。国語の活用、数学の知識に関する問題では昨年度をやや下回りました。

【本町の生徒が概ね身に付けている内容】

○伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと。(国語)

○文脈に即して漢字を正しく読むこと。(国語)

○2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すこと。
(数学)

○具体的な場面で数量の関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形すること。(数学)

【本町の生徒に一層身に付けさせたい内容】

△文脈に即して漢字を正しく書くこと。(国語)

△自然数の意味を理解すること。(数学)

△前提となる条件が不足している場合に、加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明すること。(数学)

(2) 児童生徒質問紙に関する調査結果

全国の平均と比べて特徴的な項目は次のとおりです。

小学校

○心の教育に関する質問では「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合が多い。

○言語活動に関する質問では「友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解し、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた」と答えた児童の割合が多い。

○学校、授業等への意識に関する質問では「学校に行くのは楽しいと思う」「学校のきまりを守っている」と答えた児童の割合が多い。

○家庭での学習・生活に関する質問では「平日、学校の授業時間以外に1時間以上の学習をしている」「家で、自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童の割合が多い。

△「家で、学校の予習をしている」と答えた児童の割合が少ない。

△「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う」と答えた児童の割合が多い。

中学校

○言語活動に関する質問では「先生から示される課題や自分たちが立てた課題に対して、自ら考え、取り組んだ」「生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解し、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた」と答えた生徒の割合が多い。

○学校、授業等への意識に関する質問では「授業の中で分からないことがあっても、そのままにしない」と答えた生徒の割合が多い。

○家庭での学習・生活に関する質問では「家で、学校の授業の復習をしている」と答えた生徒の割合が多い。

△「平日、1時間以上、テレビゲーム(携帯式含む)をしている」と答えた生徒の割合が多い。

△「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒の割合が少ない。

3 今後の取組について

上記の結果を踏まえ、川辺町として次のことを大切にしております。

(1) 「児童生徒の実態」「学習状況」「定着」の3つを見届ける授業づくりの推進

- ・今回の結果を踏まえた各校の指導改善を具体化する取組を支援する。
(各校の指導改善については、校報等で保護者に伝える。)
- ・図書館教育を推進し、学校図書館を「読書センター」としての機能に加え「学習・情報センター」としての機能と活用の充実を図る取組を支援する。

(2) ユニバーサルデザインの授業づくりの推進

- ・落ち着いて学習に取り組める環境を整える。
- ・一人一人に伝わるよう伝え方を工夫する。
- ・一人一人が意欲的に取り組み、進んで関わりあえる活動内容を工夫する。

(3) 学校と家庭・地域との連携強化

- ・情報通信機器の健全利用をめざす「かわべKMS 9運動」をさらに推進し、安全・安心な環境を整える。
- ・小1～中3までの家庭学習の目標や内容を示した「家庭学習リーフレット」を作成し、家庭学習の一層の充実を家庭と連携して進める。
- ・「ふるさと教育」を推進し「わたしが好き」「この町が好き」と言える児童生徒を増やす。